

令和5年度 学校評価 自己評価書（三学期）

1 学校の重点目標

(1) キャリア教育の充実
(2) 確かな学力の定着
(3) 心に届く生徒指導
(4) 健康・体力向上の推進
(5) 特別支援教育の充実
(6) 人権教育の充実
(7) GIGAスクールを踏まえたカリキュラム・マネジメント
(8) 信頼される学校づくりと業務改善の推進
(9) 小・中の連携の充実

2 課題と改善策

	評価項目	職員	評価結果と改善方策	
力の 確かな 学力の 定着	1 各種調査による学力の実態把握	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 鹿児島学習定着度調査の分析を行い、「学びの羅針盤」を使って授業の具体的な改善策について話合った。 タブレット端末を春休みに持ち帰ることで、学習内容の復習に使えるようにした。 	
	2 「WEB システム」の評価問題の実施	3.0		
	3 個別最適な学びの取組	3.2		
	4 授業の振り返りの活動	3.2		
生徒 心に 届く 指導	1 積極的生徒指導の実践	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は不登校支援として、サポートルームを開設することで、教室に入れなかったり、短時間登校したりしている生徒の居場所づくりや学習支援の充実を図る取組ができた。 	
	2 いじめの未然防止や早期認知	3.4		
	3 特別活動の工夫	3.4		
	4 不登校・不登校傾向生徒への支援	3.5		
向上の 健康・ 体力 の推進	1 基本的な感染症予防の実践	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防については引き続き取組が必要である。 休み時間のケガがあり、危険予知能力を高める必要がある。 	
	2 体力等の向上	3.2		
	3 生徒の安全意識の向上に関する取組	3.1		
	4 SSTの授業の実施	3.0		
教育の 特別 支援 の充実	1 個別の支援計画・指導計画の作成と活用	2.9	<ul style="list-style-type: none"> 個別に配慮や支援が必要な生徒の引継ぎを確実にを行うことを確認した。 	
	2 チームによる支援体制の確立	2.6		
	3 SCや相談員、関係機関との連携	2.9		
人権 教育 の充実	1 Momを踏まえた生徒理解	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で道徳の授業を行う仕組みが定着し、内容項目の確実な実施ができています。 職員研修で、学校の目的や役割について考え、互いの教育観について職員が語り合う場を設けた。 	
	2 学校全体での道徳の授業の実践	3.5		
	3 言葉の重みへの意識の向上	3.3		
	4 良さに着目した生徒理解	3.4		
カリ キュ ラム の マ ネ ジ ム ン ト	1 指導と評価の一体化	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間を軸に、各教科の単元計画を、探求のプロセスの視点から整理したカリキュラム・マネジメントの改善を図る必要がある。 	
	2 GIGAスクールに必要な技能の習得	3.3		
	3 授業における生徒のタブレット活用	3.3		
学 校 づ く り に 関 連 す る	1 勤務時間を意識した業務改善	2.9	<ul style="list-style-type: none"> 各種通信やまなびポケットによる情報発信は、保護者アンケートからも高い評価を得ている。 	
	2 服務規律の厳正確保	3.4		
	3 保護者や地域への情報の発信	3.4		
	4 校内の設営の工夫及び整理整頓	3.4		
連 携	小 中	1 小中間の情報交換や共通実践事項の実践	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 6校PTAを対面で開催し、来年度の行事調整や小中連携研修会の日程を調整した。

※ 職員の評価は、学校全体の取組を4段階で評価し、その平均値を示している。

3 来年度に向けての取組

- 総合的な学習の時間を通して育成する資質・能力を、地域との協働の中で実現する方法を研究し、その成果の一端を令和6年9月27日に公開する。
- 各教科等で「課題の設定」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究のプロセスを踏まえた単元計画や年間指導計画の改善を行う。
- 学校生活全般の決まりについて、ルールメイキング委員会などで見つめ直す取組を継続して行っていく。